

推定すると2月下旬～10月下旬である。

(2) 産卵群の背套長

春期の産卵群の背套長と夏期の産卵群の背套長にかなり明確な相違がみられたので、1～3月の春期産卵群と6～8月の夏期の産卵群の背套長の比較を行った。その結果を図-2に示した。1月～3月の春期産卵群の纏卵腺長は背套長2.5cmを境に急激に大きくなる。6月には背套長1.3cm 8月には1.1cmを境に急激な変化がみられる。また図-3に示した熟度指数と背套長の関係からも全く同様なことがいえる。纏卵腺長と熟度指数の関係は正の相関を示すことから、春期産卵群の背套長は2.5cm以上、夏期の産卵群の背套長は1.1cm以上と推定される。また9月の熟度調査でもわかるように背套長2.0cm未満の個体はすべて未熟であること等から秋期産卵群の背套長は春期産卵群と類似するものと思われる。これらのことを模式図に示すと図-4のようになる。

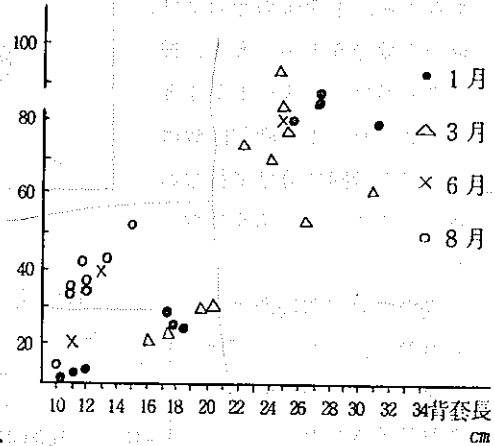


図-2 纏卵腺長と背套長の関係

(3) 産卵場・産卵量・産卵習性

産卵場・産卵量等の確認のため図-5に示すような産卵巣を50個作成し、図-6に示す海域に設置し調査した。この調査及び過去の資料、

マス網のロープ等に産卵が確認された海域及び

図-3 熟度指数と背套長の関係

図-4 アオリイカの産卵発生模式図

